

令和7年度 学校経営の方針と重点

1 基本的な態度

“元気に登校、居心地よく満足して下校”

(1) めざす学校像

①学びが楽しい学校

本来、学ぶことは楽しいこと。高島小学校は、子ども自らが主体的に学ぶ姿をめざす。そのためには、意欲を育み学びに向かう力をつける学校でありたい。

②心のやさしい学校

同じ学年の友だちや学校中のみんなと仲間になる学校でありたい。仲間に対する思いやりやいたわりを高島小学校の子どものあたり前の姿にしたい。

③健康でたくましい学校

子どもたちには、先行きが不透明で変化の激しい時代を「生き抜く力」が必要である。気力と体力を鍛え、潑刺とした子どもを育む学校でありたい。

(2) めざす子どもの姿

『思う存分学校生活を楽しみ、仲間と関わりながら成長する子ども』

①地域を元気にする子ども

素直さや明るさ、笑顔で挨拶、とげのない態度などの子どもらしさは、地域社会を元気にする力を持っている。そのような力を発揮する子どもたちを育みたい。

②こころざしのある子ども

こころざしとは、自分の目標を立てること、そして実現のために真面目に努力を積み上げること。こころざしある学校生活を送る子どもたちを育みたい。

③思う存分学校生活に取り組む子ども

学校に来ることが楽しいという実感があれば、子どもたちは様々なことに興味を持つ。やってみたいという意欲にあふれ、一生懸命に取り組む子どもを育みたい。

(3) 高島小学校の職員として

①自分の仕事をするのがうれしい

ゆとりの中でのびのびと、楽しく教育実践や業務推進ができる学校にしたい。成就や進歩の喜び、教育改革や業務改善のやり甲斐を味わう職員集団でありたい。

②子どもの成長がうれしい

子どもを丸ごと受け入れ、すべての子どもを特別扱いすることができる教師でありたい。学校生活のほとんどを占める日常授業や集団の力を高める行事活動を通して、子どもが成長することを喜び合う職員集団でありたい。

③同僚とともに働くのがうれしい

私たちが生きている時間のうち、とても多くの時間を高島小学校で過ごす。互いに協力し合いながら、高島小学校の職員として生きることがうれしいと感じる職場にしたい。そして、課題や困難に直面した時、知恵と力を結集して考え、ここぞというところでがんばれる職員集団でありたい。

2 学校教育目標

○じょうぶな子ども ○心の美しい子ども ○考える子ども ○ねばり強い子ども

◇ 伝統的なキャッチフレーズ 「強く 鋭く のびやかに はばたけ 若鷲っ子」

3 経営の方針

- (1) わかる授業、楽しい授業を工夫し、確かな学力の向上を図る。

学校経営の中核は、毎日の授業の充実にある。学習指導要領の趣旨に基づき基礎基本が確実に定着する授業を行うために、教科の特質に応じた見方や考え方を働かせる深い学びが実現する指導過程の工夫改善に努める。学習効果を高める手段として、効果的にICT活用を図る。

- (2) 自尊感情や思いやりの心を高める活動を充実させ、いのち輝く学校生活を創出する。

子どもたちの生活の場である学級を明るく楽しい場にするために、学級経営の充実に努め、「自己存在感を感じる学級」「自己決定の場がある学級」「共感的人間関係が深まる学級」の実現に努める。

- (3) 心身を鍛える教育活動を工夫し、意欲と活力のある児童を育成する。

健康でたくましい心と体は、「生き抜く力」を支える土台である。教科体育や遊びの時間を通して基礎的な運動能力や体力を育てるとともに、対外的な運動行事に積極的に参加しようとする意欲を高め、目標を持ち達成のために努力をする経験を意図的に位置づける。

- (4) 家庭や地域との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。

教育課程を地域や保護者と共有し、地域の教育力を最大限に活用した連携協働による教育活動を推進する。

学校運営協議会による学校経営に対する意見や地域学校協働活動による支援体制を生かし、地域とともに学校経営の充実に努める。

- (5) 幼小中連携により、教育課程や生徒指導をつなぐ取り組みを推進する。

幼小の接続を円滑にするための交流活動やスタートカリキュラムの充実、及び小中の接続を円滑にするための学習指導や生徒指導の課題に対応した取り組みの充実を図る。また、幼小中連携の共通事項（挨拶、読書、お手伝い）を家庭とともに実践する。

- (6) 目的を達成するために必要なことを精選し、業務改善を推進する。

子どもに力をつけるという目的のために必要な取り組みを精選し、働き方改革の視点を踏まえた業務改善に努める。学校のなかの無理・無駄を見つけ、これまでのあたり前にとらわれずに改善を進める。

4 今年度の重点課題と具体的方策

◆『考える子ども』の育成

変化が激しく予測が困難な時代を生きていく子ども達に必要な力は、新たな状況に出会っても、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決する力である。このような力を発揮するためには、指示に従って行動したり、与えられた枠組みの中で活動したりするだけではなく、自ら考えることが求められる。

高畠小学校では、下記のようなことを大切にして、「考える子ども」の育成をめざしていく。

《具体的方策》

①授業で考える子どもを育む

授業の工夫改善を通して、わかる楽しい授業を創造し、基礎基本の定着を図り、友だちとかかわりながら豊かに追究し、表現できる子どもをめざす。

ア、子どもが考える時間を確保する。また、黙って考えることを認める。

イ、思い通りの回答でなくても、的外れでも子どもに話をさせ、聞く。

ウ、既習の知識を使って考える、自分の経験と結び付けて考える、比較して考える、違いや共通していることに着目して考えることなどを大切にし、思考の深まりを意識して指導する。

エ、課題意識を持ち、めあてを確認する段階と課題に対するまとめの段階を1時間の授業に位置付けることを習慣化する。

②自主学習で考える子どもを育む

ア、興味や関心を持ち、進んで学ぶ意欲を持って取り組む。

イ、自分で課題を設定し、情報を集め解決する学習方法を身に付けさせる。

ウ、目的やねらいをはっきりさせて、自学自習の方法を考えることができるようにする。

③学校生活全般を通して考える子どもを育む

ア、自分のことを考える

- ・自分の健康や安全、命を守る
- ・自分はどのように行動するか（挨拶や廊下歩行など）

イ、友だちのことを考える

- ・困っている友だちがいたらどうするか、一人ぼっちでいたらどうするか
- ・自分がされて嫌なことは、友だちにもしない

ウ、学級のことを考える

- ・問題が起こった時、どのようにして解決するか
- ・力を合わせて解決し、よいクラスにする

◆『不登校・登校しぶり』の未然防止と対応

近年、全国的に不登校の人数が増加傾向にある。本校でも、R7.3月現在、不登校（欠席30日以上）や登校しぶりの子ども達が複数名いる。日頃からの未然防止に努めるとともに、長期欠席の予兆が見られたり、欠席が増えてきたりした場合には、ケース会議

等を軸にして学級経営の充実・保護者対応など積極的な関わりを行うなど、下記のような対応をしていく。

《具体的方策》

①欠席が続いた時の基本的な対応

- ・ 2～3日欠席が続いたら、電話連絡をし、児童の様子を聞き取る。
- ・ 4～5日続いた場合は、ご自宅に出向き、プリント類を届け、可能であれば本人と面会する。
- ・ 6日以上になった場合は、保護者面談等を行う。
※感染症による出席停止の長期欠席は、電話等での体調確認程度
※本人や保護者と相談しながら進める。

②保護者面談で話し合うこと

○自宅での様子

- ・ 本人の悩みはないか
- ・ 改善できる要因はないか（ゲーム、インターネットのやりすぎ 生活リズムの乱れ など）

○学校での様子

- ・ 学習、いじめや人間関係のトラブル等の悩みがないか

○再登校へ向けてできることの検討

- ・ 放課後などに登校し、担任等と顔を合わせる
- ・ 保健室や別室に一時登校する。（希望する学習は教室へ）
- ・ オンラインでの授業参加
- ・ 行事等への参加の呼びかけ など

○外部機関との連携

- ・ 保護者や児童のニーズに合わせて、必要に応じて、教育支援センター「ぽけっと」やフリースクール、医療機関、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワークコーディネーター（SSWC）等との面談等を紹介する。

③不登校の未然防止のため学校の取り組み

- ・ 学級の中で自己存在感を感じられるような活動を取り入れ、子どもの「居場所づくり」を進める。
- ・ 友達や学級の仲間とのつながりを強める活動を取り入れ、子ども同士の「絆づくり」を進める。
- ・ 先生に悩みを話しやすい雰囲気や教員が子どもの変化に気づく目をもち、児童が安心して楽しく過ごせる学校を作る。
- ・ 楽しくわかりやすい授業づくりに努め、児童が「できた」「わかった」という満足感をもてるようにする。

④ご家庭でお願いすること

- ・ 「早寝、早起き、朝ごはん」に努めて、生活リズムを整え、気持ちよく登校できるようにしていただく。
- ・ ゲーム依存、ネット依存にならないように、約束を決めていただく。
- ・ 週初めや週終わりの行きたくない気持ちはだれにでもある。「休みぐせ」をつけないようにし、少しの体調不良であれば、登校に向かうように励ましをお願いする。
- ・ 子どもの様子に変化があったり「学校に行きたくない」などの発言が聞かれたりした場合、本人に話を聞き、必要に応じて学校にご相談いただく。

5 その他の課題についての対応

(1) 「じょうぶな子ども」「ねばり強い子ども」の実現に向けて

- ①教科体育や中間休みなどの過ごし方について、縄跳びやランニングなどのめあてを持たせ、自ら運動に親しむ子どもを育てる。
- ②目標を持ち達成のためにがんばる意欲を育てる。また、うまくいかなくてもねばり強く取り組む意欲を育てる。
- ③心身の健康への関心を高め、家庭と連携して基本的な生活習慣の確立に努める。
- ④教育活動のすべてにおいて子どもの安全を最優先する。全職員が危機管理意識を持つとともに、子ども自らが危険を予測し回避する能力を育成する。

(2) 「心の美しい子ども」の実現に向けて

- ①教職員が児童に対して常にやさしく、思いやりのある態度で接するよう常日頃より心がけ、児童同士の温かいかわいが生まれるような場を大切にする。
- ②心地よい挨拶や落ち着いた行動、時と場をわきまえた振る舞いができる心を育てる。
- ③読書や読み聞かせ、器楽活動や歌声など、学校生活に彩りと潤いをもたらす機会を大切にする。

(3) 特別支援教育の推進について

- ①通常学級における特別な支援が必要な児童に対して、特別支援教育コーディネーターを中心として全校規模の支援体制を確立する。
- ②個々の児童の教育的ニーズに応じた特別支援学級経営を充実させる。
- ③特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習の実施にあたっては、互いに意義のある学習になるよう工夫する。また、障害のある者と障害がない者がともに学び、ともに生きる学校生活の充実を図る。

6 学校経営の基盤

(1) 教師の資質向上

- ①意識改革を図る校内研修の充実
課題意識、改善の必要感を共有する校内研修を活性化する。また、研究の日常化を図り、提案性のある取り組みを共有し成果を蓄積する。
- ②基礎基本を確実に身に付けさせる指導力と体制づくり
日常的かつ計画的に OJT を充実させ、日々の授業の工夫改善を図る。
- ③生徒指導力を高める
生徒指導が機能として働く学習指導や学級経営を推進する力をつける。

(2) 信頼される学校

- ①説明責任・結果責任を果たす学校経営
社会に開かれた学校経営を推進するため、学校としての考え方や取り組みを地域に説明する。また、学校経営の評価を適切に実施し、結果に基づいた改善策を説明する。
- ②学び続ける教師
服務規律の厳正を期し、信頼される教職員であること。職責を自覚し、専門性を高めるために研究と修養に努める教師であり続ける。